

アムスルだより

No. 60 2003年 3月10日



Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@ryukyu.ne.jp

海面で暮らすクラゲたち - カツオノエボシとカツオノカンムリなど -



カツオノエボシ

毎年、冬の北風はさまざまな漂流物ひょうりゅうぶつを運んできます。北風だからといって、全てのものが北方由来というわけでもなく、台湾のブイやライターも見つかります。慶良間の北には黒潮が流れていて、この海流にのって南から流れてきたものが、北風で慶良間に吹き寄せられるのでしょう。そして、それらの中には、もちろん、生き物たちもいます。今回は、‘風に乗って’海を流れてきたクラゲたちの話をしましょう。

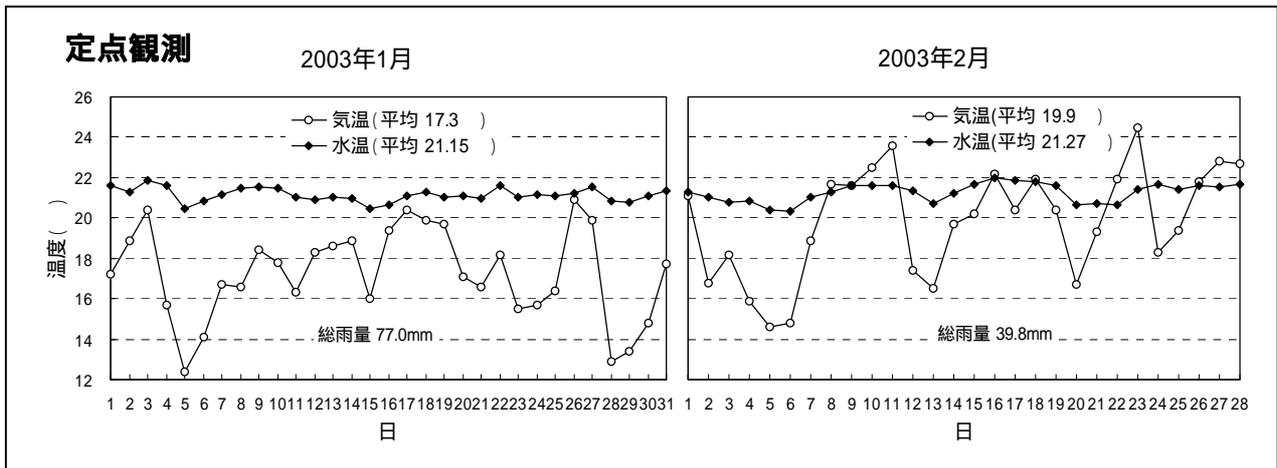
先日、クシバルの砂浜を歩いていると、‘風船’が2つ落ちていました。薄い青色をしていて、大きさは5cmくらい、まん丸ではなく少し細長くて、合わせ目のような線が1本あり、ふくらんだギョウ

ザのような形です。よく見ると風船の下には、モヤモヤとたくさんの青いひもがついています。見なれない人なら、うっかりさわってしまうかもしれませんが、これがカツオノエボシです。‘電気クラゲ’と呼ばれることもあるくらい、強い毒しよくしゅをもっていて、ひもの部分（触手）で魚などを捕らえて食べます。打ち上げられて、死んでいるように見えても刺すことがあるので、絶対にさわらないで下さい。これまで阿嘉島では、あまり見かけたことはありませんが、石垣島やもっと北の神奈川県などでは、ときどき大量に流れてくることがあり、刺されて重症になると、呼吸困難こきゅうこんなんにおちいることもあります。

よく港の中の片すみにゴミが吹きよせられますが、ここにも生き物がいます。先月、水面に浮いているゴミをすくってみると、だ円形の薄い板の上に透明な三角形の‘帆’ほをもつ不思議な形の生き物



カツオノカンムリ



を見つけました。カツオノカンムリです。2mm くらいの小さなものから 3cm くらいのものまで、いろいろなサイズのものが見つかりました。このクラゲは、‘帆’に風を受けて、ちょうどヨットのよう移動します。よく似た仲間にギンカクラゲがいますが、これには‘帆’がなく、まん丸い板があるだけです（これが“銀貨”という名前の由来です）。カツオノカンムリもギンカクラゲも板は、青い肉で覆われていて、その下の面にたくさんの突起がぶら下がっています。実はこれが 1 つ 1 つの個体（個虫）で、言ってみれば、自分で作った板の下に町を作ってくらしているようなものです。この個虫には、餌を食べるものと、生殖にかかわるものとがいて、生殖にかかわるものは、1mm ほどの小さなクラゲを産み出し



ギンカクラゲの個虫

りして、海の中を泳いでいますが、今回紹介した 3 種類のクラゲは、カツオノエボシは浮き袋をもち、カツオノカンムリは風を受ける帆をもち、水面での生活のために都合の良い形をしていて（ギンカクラゲは、とくにそんな形をしていないように見えますが、丸い板は浮きの役目をしています）、どれも海面に浮いて風や海の流れによって移動しながら暮らしています。

阿嘉島の海より

春です。これから少しずつ海の水も温かくなっていきます。クジラもそろそろ北の海へ帰る準備を始めるでしょう。お世話になった先生や仲良しの友達ともお別れしなければならない季節ですが、また新しい先生や友達と出会える季節でもあります。



ギンカクラゲ

ます。

ふつうクラゲは、傘を閉じたり開いた